

第3章 総合交通計画の方向性

3.1 基本理念

市の交通をとりまく現状と課題を踏まえ、今後の交通のあり方を示す「伊丹市総合交通計画」の基本理念は、以下のように設定します。

市民のみなさんはもちろん、伊丹市で活動するどんな人にも、どこにでも安心して快適に移動できる交通手段が確保され、伊丹空港（大阪国際空港）をはじめとする利便性の高い立地条件を活かした広域ネットワークのさらなる強化とまちづくりを連携することにより、にぎわいや活力があふれ、様々な都市活動の場所として選ばれ続ける魅力ある交通まちづくりをめざします。

基本理念

都市活動を支え だれもが快適に移動できる
あしたにつながる交通まちづくり

この基本理念は、以下に示す上位計画の「伊丹市総合計画（第5次）」「伊丹市都市計画マスタープラン2011」に示されたまちづくりの目標とも整合しています。また、次節では、上位計画の概要を示しています。

| 上位計画におけるまちづくりの目標 | |
|-------------------|--|
| ＜総合計画（第5次）＞ | |
| 【基本目標】 | 市民が主体となったまちづくりの実現 |
| 【政策目標】 | 1. 支え合いの心でつくる安全・安心のまち 2. 未来を担う人が育つまち 3. にぎわいと活力にあふれるまち 4. 環境が大切にされ暮らしやすさと調和したまち |
| ＜都市計画マスタープラン2011＞ | |
| 【基本理念】 | 1. 成熟社会に応じたゆとりある都市空間の誘導 2. 少子高齢社会を踏まえた安全・安心の向上 3. 歴史を継承した個性と魅力の創造 4. 総合的な取り組みに基づく環境適合型社会の実現 5. パートナリシップによるまちづくりの推進 |

3.2 上位計画の概要

(1) 伊丹市総合計画（第5次）

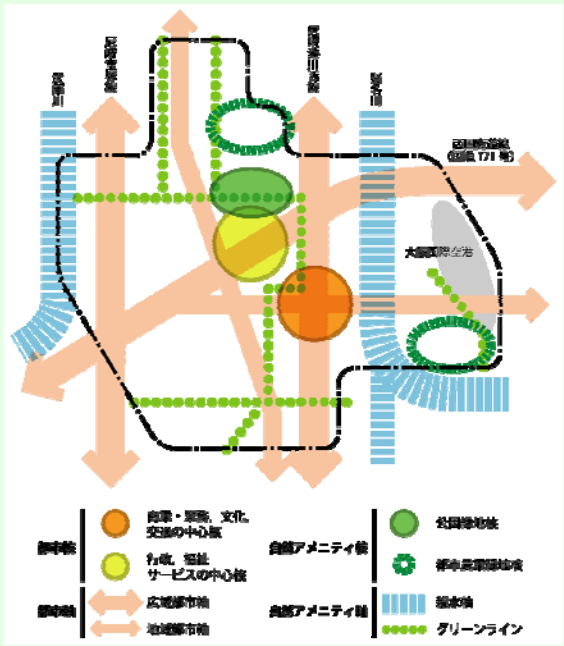
「伊丹市総合計画（第5次）」では、「将来像」、将来像を実現するための「基本目標」、施策展開にあたっての「基本方針」、将来像実現のためのより具体的な目標である「政策目標」を以下のとおり示しています。

| | |
|--------|---|
| 【将来像】 | <p>「みんなの夢 まちの魅力 ともにつくる 伊丹」</p> <p>これからの10年間 それぞれが行動しできることを担い合う 真の協働社会の仕組みをつくります</p> |
| 【計画期間】 | 平成23年度～平成32年度までの10年間 |
| 【基本目標】 | <p>市民が主体となったまちづくりの実現</p> <p>多様性を認め合い「お互いさま」で成り立つ人と人とのつながりを大切にする共生社会を地域社会の基盤とし、<u>市民が自発的にまちづくりに参画・協働することにより</u>、まちの新しい個性や魅力、活力を創造し、また、その活動を通してまちへの誇りと愛着を持つことに結び付けていく必要があります。</p> <div data-bbox="671 898 1430 1592" style="text-align: center;"> </div> |
| 【基本方針】 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 参画と協働による市民自治 2. 多様性を認め合う共生社会 3. 自立的な行財政運営 |
| 【政策目標】 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 支え合いの心でつくる安全・安心のまち 2. 未来を担う人が育つまち 3. にぎわいと活力にあふれるまち 4. 環境が大切にされ暮らしやすさと調和したまち |

(2) 伊丹市都市計画マスタープラン2011

「伊丹市都市計画マスタープラン2011」では、「伊丹市総合計画（第5次）」を踏まえて「都市づくりの基本理念」、「都市づくりの目標」、「都市構造パターン」を以下のとおり設定しています。

また、交通に関連する「都市計画道路※」「生活道路空間」「鉄道・バス・空港」「駐車場・駐輪場」「中心市街地」の部門別整備方針についても示されています。

| | |
|---------------------|--|
| <p>【都市づくりの基本理念】</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 成熟社会に応じたゆとりある都市空間の誘導 2. 少子高齢社会を踏まえた安全・安心の向上 3. 歴史を継承した個性と魅力の創造 4. 総合的な取り組みに基づく環境適合型社会の実現 5. パートナーシップによるまちづくりの推進 <p>多様化する地域ニーズに応えるため、市民一人一人がはぐくむ多様で個性的なライフスタイルと市民の自立的な参画と協働により形成されるコミュニティ※をもとに、さまざまな主体が地域の課題を共有し、その責任と役割を認識しながら、多様な市民参加とパートナーシップによるまちづくりを進めます。</p> |
| <p>【目標年次】</p> | <p>平成32年（2020年）</p> |
| <p>【都市づくりの目標】</p> | <p>環境が大切にされ暮らしやすさと調和したしたまち</p> |
| <p>【都市構造パターン図】</p> | <p>「都市核」、「都市軸」の形成を今後も充足充実させ、「自然アメニティ核」、「自然アメニティ軸」を充実し、成熟社会にふさわしい都市構造の確立をめざします。</p>  |

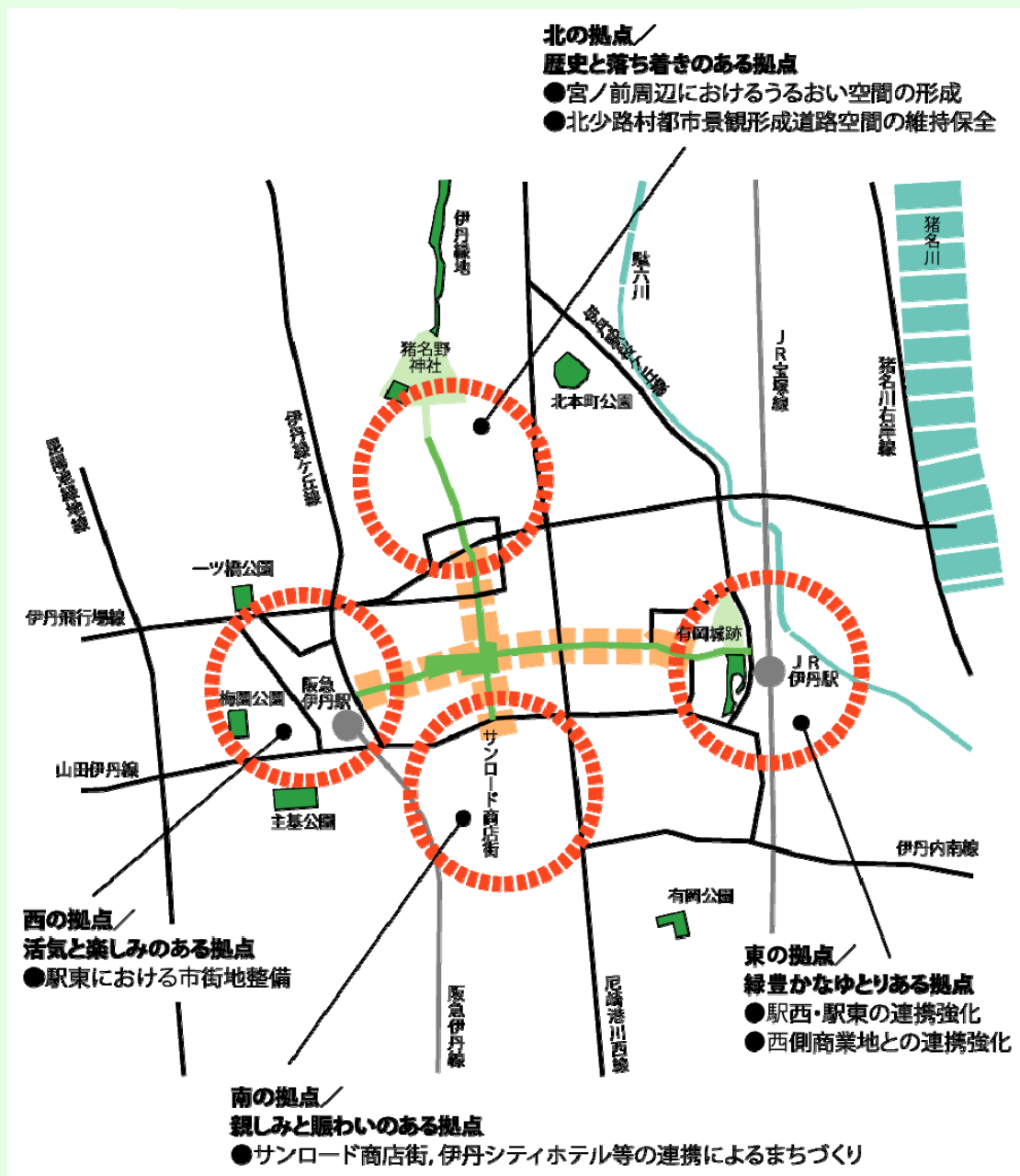
(2) 伊丹市都市計画マスタープラン2011 続き

| | |
|--|--|
| <p><交通に関連する部門別整備方針></p> | |
| <p>(1) 都市計画道路*の整備方針</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路整備プログラムに基づいた計画的な都市計画道路整備。 ・交通量等の動向や配分も見極めた合理的な都市計画道路整備のあり方の検討。 ・ゆとりのある自転車・歩行者道の充実などによる人と車の安全で円滑な交通の確保。 ・バリアフリー*化、街路樹の植栽や無電柱化などによる快適な道路空間の創出。 | |
| <p>(2) 生活道路空間の整備方針</p> | |
| <p>[安全性の向上]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路の整備による生活道路への通過交通の進入の抑制。 ・歩行者の安全性、快適性を確保に向けた適切な交通規制の関係機関との協議。 ・歩車道分離、障がい者や高齢者にやさしい歩道整備。 | |
| <p>[魅力の向上]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力的なまちづくりに向けた快適で美しい道路空間の充実。 ・地域の特色となるような歩行者優先のコミュニティ道路*の整備。 ・低騒音舗装*、透水性舗装*等による環境への負荷の軽減。 ・歩いて楽しい道づくり。 ・高齢者や身体障がい者など社会的弱者をはじめ、すべての人がわかりやすく、安全で快適に市内を移動できるユニバーサルデザイン*による道路空間の整備。 ・道路舗装や街路樹等の適正管理や沿道緑化についての適切な指導・育成による安全で快適な道路空間の維持。 | |
| <p>(3) 鉄道・バス・空港の整備方針</p> | |
| <p>[バスの輸送機能及び利便性の向上]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市バス輸送機能の向上と定時運行の確保に向けた優先方策、路線の再編。 ・高齢社会に対応した福祉的対策、環境面に配慮した対策の充実。 | |
| <p>[空港を活かしたまちづくり]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空港周辺地域の活性化対策の推進。 ・伊丹スカイパークを活用した周辺地域の活性化。 | |
| <p>(4) 駐車場・駐輪場の整備方針</p> | |
| <p>[駐車場の整備・取り組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車需要の見極めに基づく路上駐車防止指導による道路の交通機能確保、中心市街地の活性化。 | |
| <p>[駐輪場の整備・取り組み方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の自転車駐車場の連携による総合的な利用促進。 ・各駅周辺の実態に即した施設整備。 ・放置自転車のない安全で快適な歩行空間の創出。 ・総合的な路上駐車・駐輪対策の実施。 | |

(5) 中心市街地の整備方針

- ・ 阪急伊丹駅周辺地域、JR伊丹駅周辺地域、宮ノ前地区、サンロード商店街地区の4極相互の連携と歩行者優先道路など2軸の整備による動線の確保による活力ある商業・業務ゾーンの形成。
- ・ 環境美化や違法駐車・駐輪防止の推進による美しい快適な都市空間の維持。
- ・ PTPS（公共車両優先システム）※等バス優先運行方策の導入等による鉄道駅周辺における公共交通の利便性向上。
- ・ 歩行者優先道路等の整備をはじめユニバーサルデザイン※による歩いて楽しい歩行者空間の確保等による交通利便性の高いにぎわい交流拠点の形成。
- ・ 歩行者優先道路沿道の回遊性のあるにぎわい空間の連続性の確保。

〔4極2軸のイメージと各ブロックの活性化の方向性〕



3.3 総合交通計画推進にあたっての基本的考え方

市の交通をとりまく現状と課題や、本計画の基本理念に基づき、本計画を推進するにあたっての基本的考え方として、計画全体の基本方向とめざすべき総合交通ネットワークを示します。

(1) 計画全体の基本方向

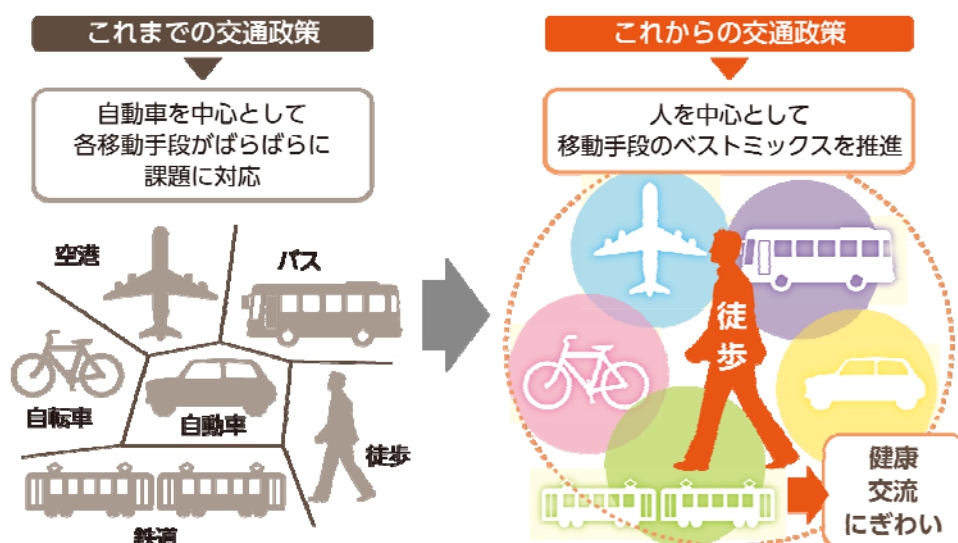
これまでの市の交通政策では、増加する自動車交通に対応した道路整備を中心に、拡大する都市活動を支えるための整備が行われてきました。また、自動車交通をはじめ、鉄道やバスなどの公共交通、自転車、徒歩などの移動手段が、個々の課題にばらばらに対応してきたため、各交通手段の機能を十分に活用できていないところが残されています。

一方で、これからの人口減少、高齢化社会の進展に伴い、自動車交通の減少や自動車を自由に利用できない高齢者の方の増加が予想され、また、環境問題に対する意識や健康志向の高まりなどにより、市民の移動に対するニーズや質に対する価値観も多様化しています。さらに近年、伊丹空港（大阪国際空港）を利用して関西を訪れる人が増加していることに加え、関西国際空港とのコンセッション*による運営により国際線復便が期待されることから、国外・市外から伊丹市に来訪する人の環境整備が必要になります。

これらのことを踏まえ、今後の市の交通政策は、市民及び市外からの来訪者を対象として、自動車を中心とした交通政策から、人を中心とした交通政策へ転換していきます。

これからの交通政策は、人（徒歩）を中心として、自転車、バス、鉄道、自動車、そして空港との連携を強化することにより、目的や状況に応じて選択できる移動手段のベストミックス*を推進します。ソフト面、ハード面両面においてシームレス*な交通体系を構築することで、自動車がなくても、市内も市外へも便利で快適に移動できるようになり、歩いて移動する人が増え、その結果として普段の生活の中から健康になることに加え、交流やにぎわいが生まれることにより、まちも人も元気になるまちづくりをめざします。

< 伊丹市の交通政策の転換 >

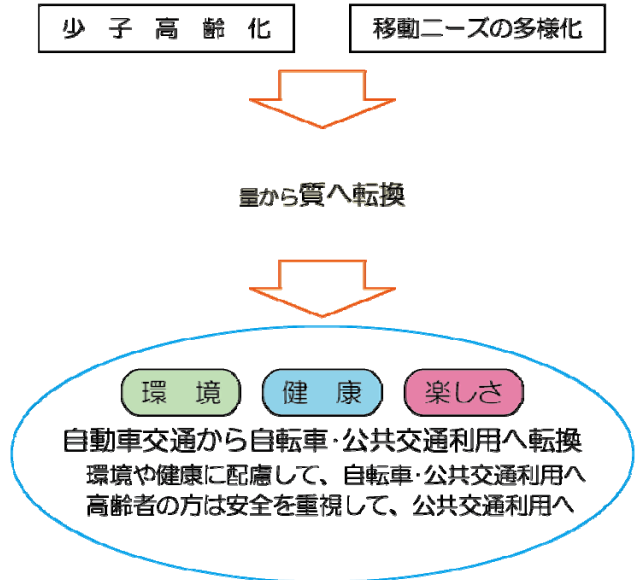


【市民への交通サービス提供の考え方】

市の人口は、今後若干増加するものの、将来的には減少すると予想されており、市民の移動量は減少していくと考えられることから、市民を対象としたこれからの交通基盤整備は、量への対応から、移動の質の向上に考え方を転換していきます。

環境や健康に配慮し、不要不急な自動車利用は、自転車、公共交通利用へ転換させていくことをめざします。特に、高齢者の方は、交通事故の加害者にも被害者にもならないよう、公共交通利用への転換を推進します。

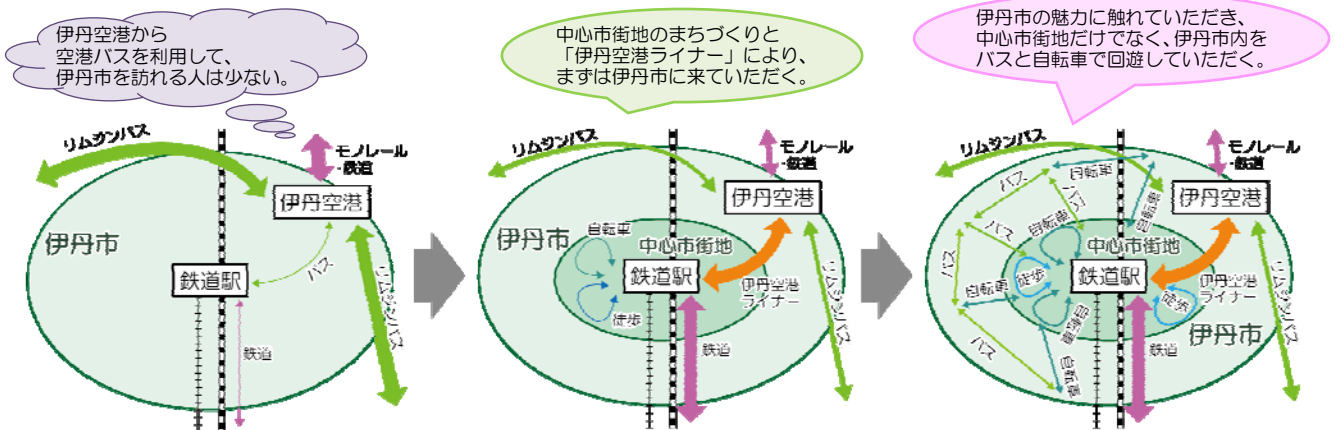
＜ 市民への交通サービス提供の考え方 ＞



【市来訪者への交通サービス提供の考え方】

伊丹空港(大阪国際空港)を利用する国内外の人々が伊丹市に立ち寄ることができるように、中心市街地のまちづくりと連携して、伊丹空港(大阪国際空港)と中心市街地を結ぶ公共交通の充実(利便性の高いバス路線の整備)を行います。また、中心市街地内は徒歩だけでなくレンタサイクル等による自転車での回遊を可能とし、伊丹市各地への移動は、自転車とバスを効率よく連携させ、伊丹市内を便利で快適に巡回できる環境整備を行います。

＜ 来訪者への交通サービス提供の考え方 ＞

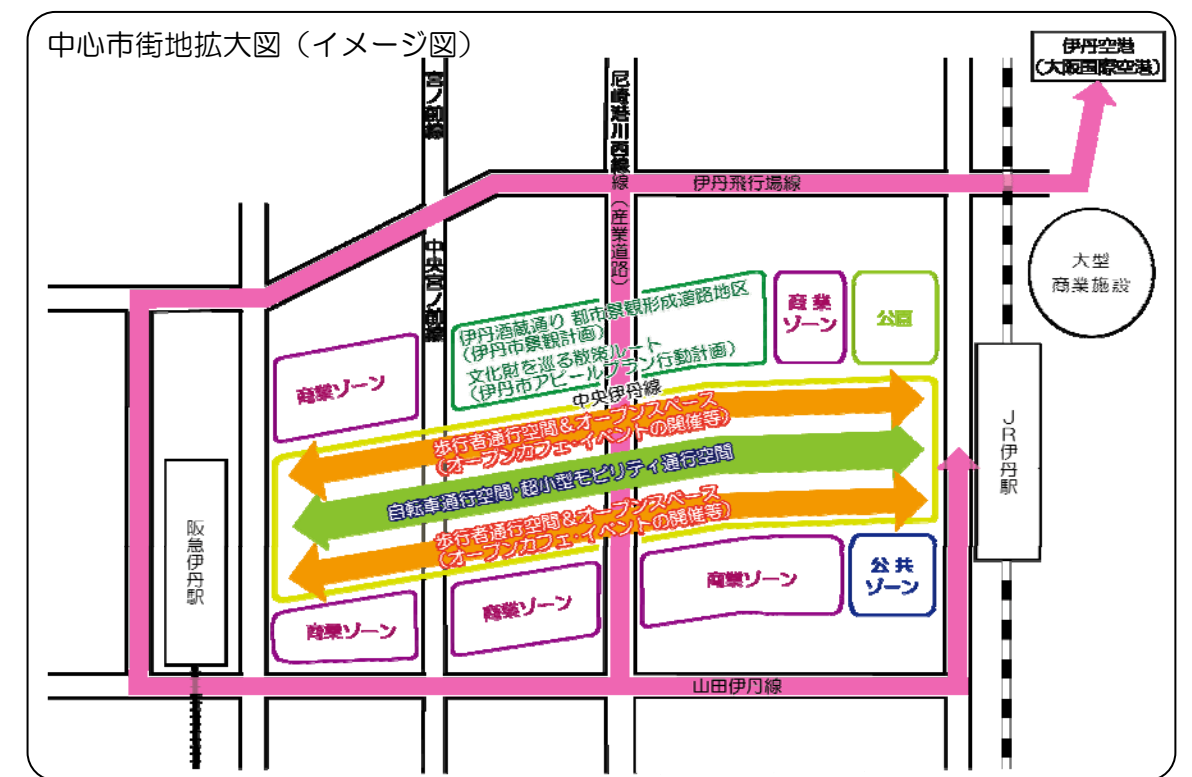
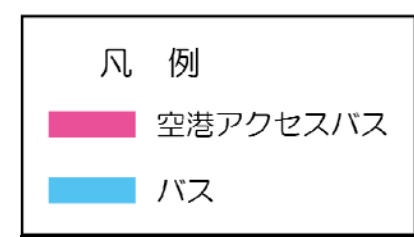
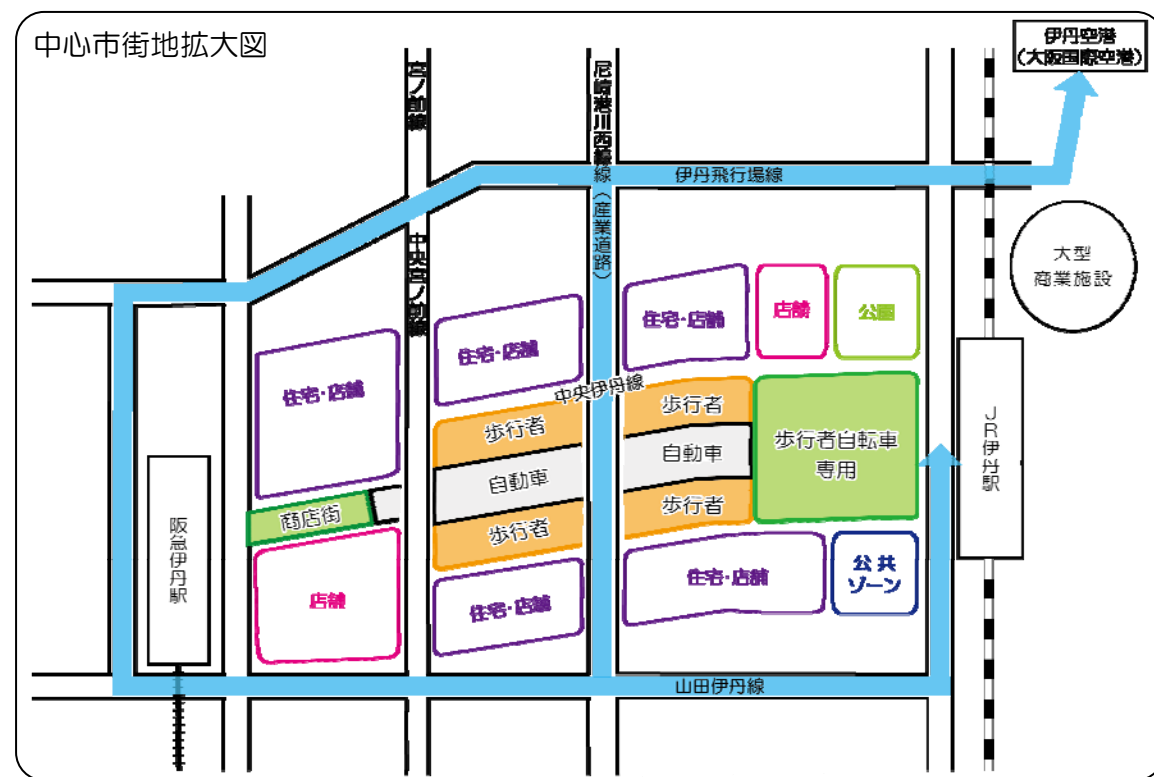
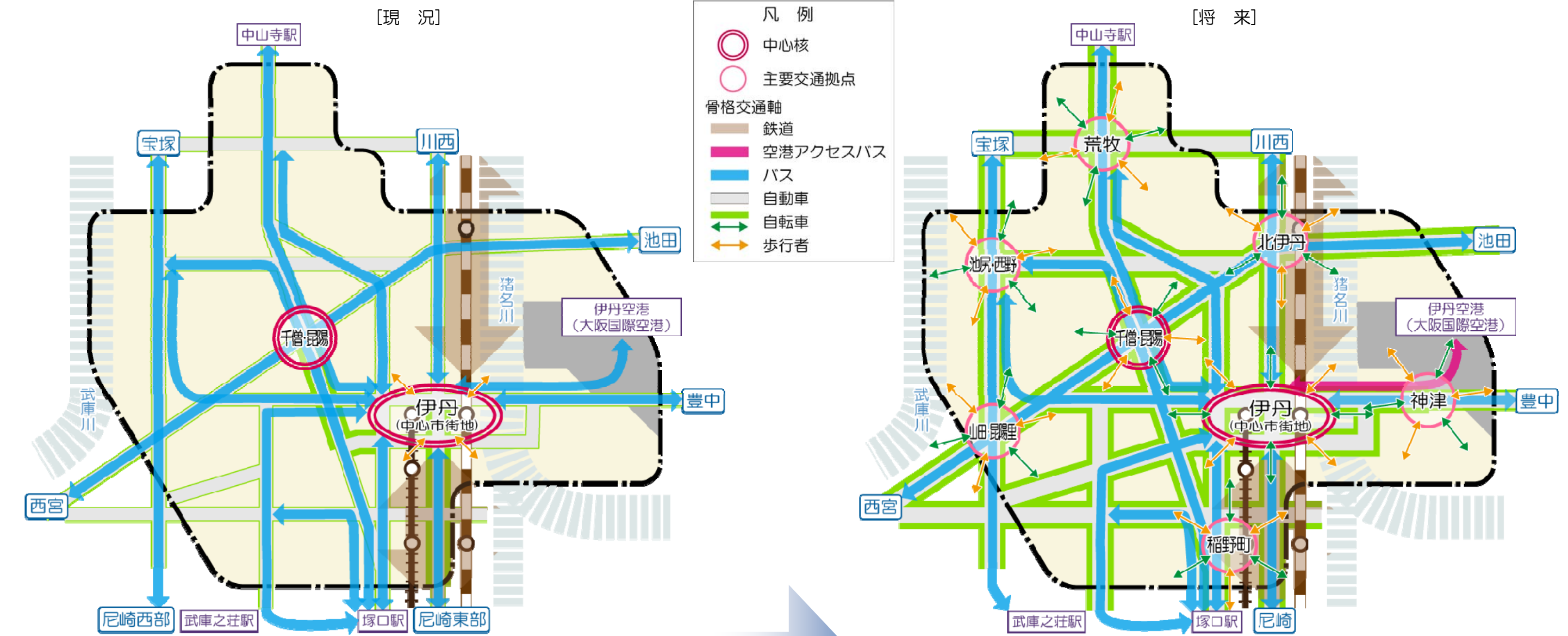


(2) めざすべき総合交通ネットワーク

基本理念の実現に向けて、移動手段のベストミックス^{*}を推進するために、めざすべき総合交通ネットワークとして、市内の各地域と中心核（中心市街地、千僧・昆陽）および市外を結ぶ骨格交通軸を設定しました。

- ・現在の骨格交通軸は、中心市街地と市外を結ぶ鉄道軸、各地域の最寄りバス停から中心市街地、千僧・昆陽といった市の中心核や鉄道駅までのバス軸、市内の各地域相互や市外を結ぶ道路軸で形成されています。
- ・将来の総合交通ネットワークにおいては、道路軸を始め、各骨格交通軸を強化させるだけでなく、各地区に主要交通拠点^{*}を設け、中心核および各主要交通拠点へ徒歩・自転車で集まり、中心核、主要交通拠点、周辺市を鉄道軸およびバス軸で結ぶことによって、移動の利便性向上をめざします。また、市域全体での歩行者の安全で快適な移動の確保をめざします。
- ・自転車については、中心核及び主要交通拠点のバス停周辺に駐輪場を整備するなど、自転車からバスへの乗継利便性向上をめざすとともに、市内のどこにでも自転車で安全・快適に移動できるよう自転車通行空間を整備することにより、自転車利用者がバスに乗り換えて目的地まで移動するのか、そのまま自転車で目的地まで移動するのかを選択できる利便性の向上を図ります。
- ・自動車交通については、未着手の都市計画道路^{*}や渋滞交差点の効率的な整備を進めるとともに、今後さらに必要性が望まれる広域的なネットワーク形成に向けた取り組みを進めていきます。
- ・中心市街地においては、歩行者の安全で快適な移動を確保し、中心市街地の回遊性向上をめざして、JR伊丹駅と阪急伊丹駅間のフルモール^{*}化を検討します。また、超小型モビリティ^{*}の通行空間の確保やレンタル導入等、さらなる回遊性の向上とともに、まちの魅力の向上をめざした先進的な取り組みも検討していきます。
- ・また、JR伊丹駅および阪急伊丹駅と伊丹空港（大阪国際空港）を結ぶバスを空港アクセスバスとして利便性を向上させ、中心市街地の歴史的なまちなみや商業ゾーンと一体的にPRすることにより、国内外から伊丹空港（大阪国際空港）を利用して関西を訪れる人の主要な玄関口として認識される魅力ある中心市街地をめざします。

< 総合交通ネットワーク >



3.4 基本目標の設定

総合交通計画の基本理念及び計画推進にあたっての基本的考え方の実現に向けて、4つの基本目標を設定しました。

鉄道やバスで移動する際にも、駅やバス停まで徒歩や自転車などで道路を利用することから、市全域での移動の安全性の確保は、いかなる移動手段においても道路が基本となります。このことから、バスや自動車の円滑な移動をめざした都市計画道路^{*}整備や、自転車や歩行者の安全で快適な移動空間確保のための整備を進めるとともに、骨格交通軸としての機能を強化させることが必要です。そのため、基本目標1では、「道路空間」の整備目標を示しました。

公共交通は、誰にとっても利用しやすいことが必要ですが、これからの高齢化の進展に伴い、ますます公共交通の担う役割は大きくなっていきます。また、公共交通は、伊丹空港（大阪国際空港）などを利用して国内外から伊丹市を訪れる人の主な移動手段として利用されることから、ユニバーサルデザイン^{*}の考えに基づいた利便性が高く、快適で効率的な公共交通が求められます。そのため、基本目標2では、鉄道やバスといった「公共交通」の整備目標を示しました。

市のにぎわいの中心として中心市街地をさらに活性化し、魅力を向上させるためには、中心市街地での徒歩や自転車での回遊性の向上が必要であり、そのための環境整備が求められます。また、中心市街地のにぎわいをさらに向上させるためには、JR伊丹駅および阪急伊丹駅と伊丹空港（大阪国際空港）を結ぶバスを「伊丹空港ライナー」として利便性向上を図り、市の中心市街地が伊丹空港（大阪国際空港）を利用して関西を訪れる人の主要な玄関口となることをめざす必要があります。そのため、基本目標3では「中心市街地」の整備目標を示しました。

これらの交通まちづくりにおいては、上位計画である「総合計画（第5次）」や「都市計画マスタープラン2011」に示されている“市民が主体となったまちづくり”や“パートナーシップによるまちづくり”を推進していく必要があります。そのため、基本目標4では、住民や企業などの多様な主体により、地域と行政が一体となって、市の交通のあり方について考え、実施していく今後の交通まちづくりの実現に向けた取り組み目標を示しました。

基本目標1. 快適な移動を支える都市の道路空間の整備

徒歩での安全・安心な移動を確保し、歩いて元気になれる歩行空間の整備とともに、伊丹市の交通手段として重要な役割を担う自転車の快適な利用環境整備を推進します。自動車交通については、効率的な道路整備を推進するとともに、伊丹空港（大阪国際空港）と関西国際空港のコンセッション*により神戸空港も含めた一体的な活用を視野に入れ、3空港の中心に位置する立地条件を活かした広域ネットワークの形成に向けた取り組みを推進します。

基本目標2. 交流を支える公共交通の充実

今ある公共交通機能を維持するだけでなく、さらに効率的にバスを運行させるとともに、バス停近くや鉄道駅での駐輪場整備を推進し、歩行者・自転車とバス、バスと鉄道等の乗継利便性の向上により、公共交通ネットワークの強化を図ります。さらにユニバーサルデザイン*を推進することによって、市民はもとより伊丹市を訪れる人が利用しやすい公共交通をめざします。また、国内外から関西を訪れる人が気軽に伊丹市に来訪できるよう、伊丹空港（大阪国際空港）とJR伊丹駅および阪急伊丹駅を結ぶバスの利便性向上を図ります。

基本目標3. 中心市街地の回遊性とにぎわいの向上

歴史的なまちなみが活かされた中心市街地のフルモール*化を検討し、徒歩や自転車の利便性・快適性を向上させます。中心市街地の魅力のひとつとして超小型モビリティ*のレンタル利用等を検討し、楽しさや回遊性を向上させることにより、人が集まり、にぎわいあふれる中心市街地となることをめざします。また、伊丹空港（大阪国際空港）とJR伊丹駅や阪急伊丹駅を利便性の高い空港アクセスバスで結ぶことにより、伊丹市の中心市街地が、国内外から伊丹空港（大阪国際空港）を利用して関西を訪れる人の主要な玄関口として認識され、多分野の人が集まり、活動の場として選ばれる、空港のあるまちとしての魅力が活かされた中心市街地をめざします。

基本目標4. 地域でつくる交通まちづくり

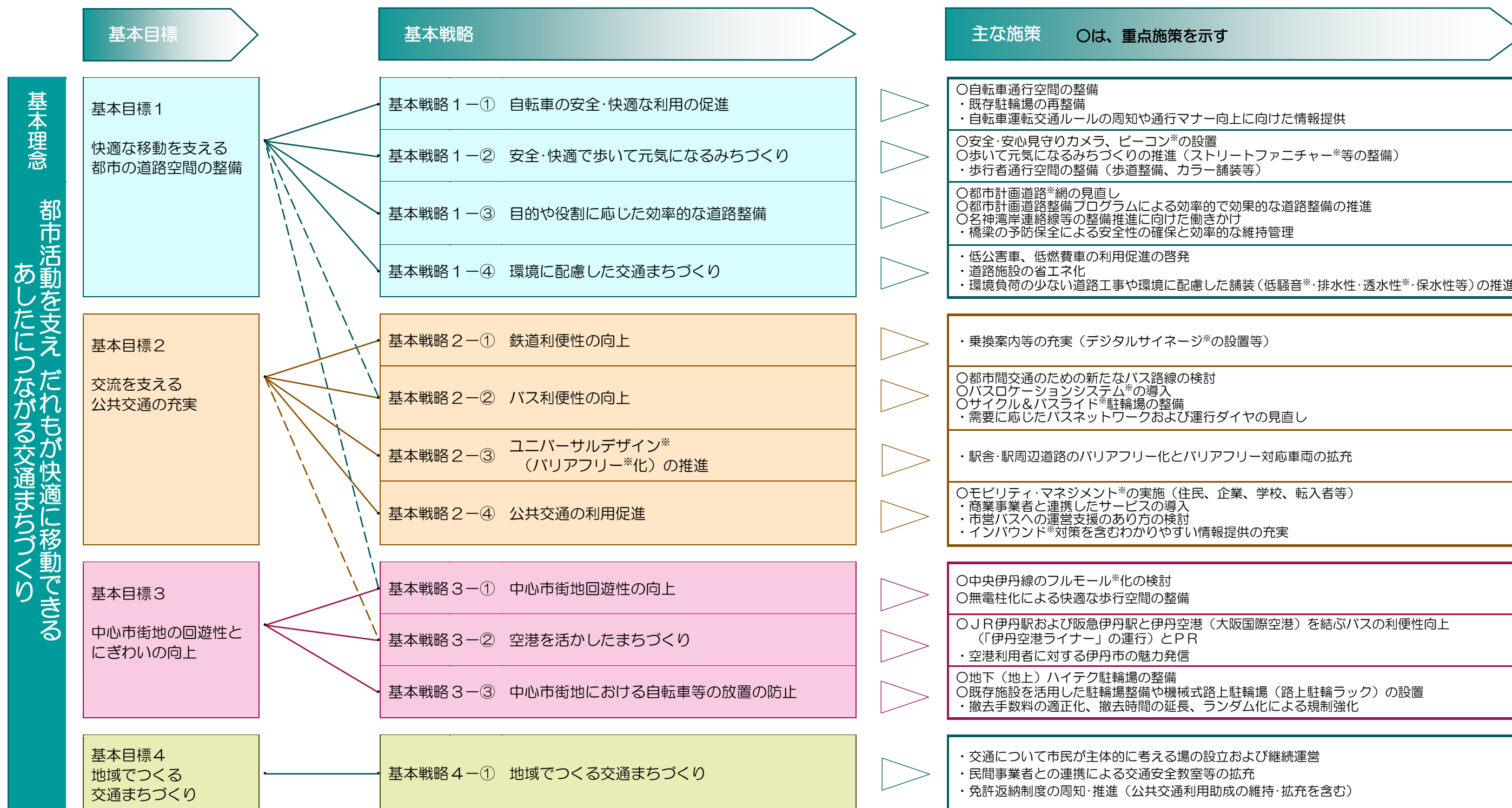
公募型協働事業提案制度*をさらに活用するとともに、多様化する移動ニーズなど地域の交通の課題やその対応策について、市民が自主的に考え、実行できる仕組みづくりを推進します。厳しい財政状況にあっても、市民や交通事業者、企業などの多様な主体がそれぞれの知識や能力を活かし、行政と連携することにより、将来を見据えた、利便性が高く、快適性・安全性が確保されたまちづくりをめざします。

3.5 施策体系

4つの基本目標の達成に向けて、以下の12の基本戦略により施策を展開していきます。

なお、基本戦略は主に関連する基本目標と対応づけていますが、他の基本目標とも関連が強い基本戦略につきましては、点線で示しています。

また、基本戦略、主な施策については、「Ⅱ. 実施計画編」で具体的な内容を示しています。



3.6 期待される効果

計画が実現することによって、高齢者や子育て世代の方などの個人属性別に見て、以下に示すような効果が現れることが期待されます。また、環境の側面や経済的な側面などから見て、計画が実現することによって、以下に示す効果が期待されます。

(1) 個人属性別に見る期待される効果

< 高齢者 >

- ・ 徒歩での移動が快適で安全になることにより、外出する機会が増えます。外出する機会が増えることによって、身体的に元気になるだけでなく、季節を感じて楽しく歩いたり、社会参加することで人と交流することにより精神的にも元気になります。
- ・ バスでの移動が便利になることで、ますます社会参加の機会が増え、バスとの乗り継ぎ利便性の高い鉄道を利用することによって、行動範囲がさらに広がります。
- ・ 自動車に頼らず移動できることで、交通事故の加害者となることがなくなります。

< 子育て世代 >

- ・ バスや自転車での移動が安全で利便性の高いものになることにより、買い物などの日常の移動において、クルマがなくても生活できるようになります。
- ・ 自転車通行帯や駐輪場が整備されることにより、小さい子どもを連れたい、ベビーカーを利用して歩道を歩く際も、自転車を気にせずバリアフリー^{*}化された歩道を快適に歩くことができます。
- ・ 安全・安心見守りカメラにより、子どもや高齢者の安全が確認できるため、安心度が高まります。

< 学生・生徒 >

- ・ 徒歩や自転車で、安全・快適に通学することができます。
- ・ バスで通学する際は、バスの定時性が確保され、また、バスロケーションシステム^{*}による到着時間の情報提供により、安心してバスを待つことができます。
- ・ サイクル&バスライド^{*}駐輪場が、運行系統や運行本数の多いバス停に整備されているため、自転車とバスを上手に組み合わせて通学することができます。
- ・ 放課後や休日など、通学ルートとは違うところに行くときも、目的地にあったサイクル&バスライド駐輪場を利用して、バスと自転車で便利に行けることから、行動範囲が広がり、時間を有効に利用できます。

< 就業者 >

- ・通勤でバスを利用する際は、バスの定時性が確保され、また、バスロケーションシステム※による到着時間の情報提供により、安心してバスを待つことができます。
- ・自転車と鉄道で通勤する際は、駅までの自転車通行空間が整備され、駅に近くて出し入れしやすい駐輪場を利用することで、シームレス※な移動が可能となります。

< 伊丹空港（大阪国際空港）の利用者 >

- ・中心市街地までバスで快適に移動でき、鉄道への乗り継ぎも便利なことから、関西各地や全国への移動での負担が軽減されます。
- ・また一方では、伊丹空港（大阪国際空港）に近く国内外からのアクセス性がよい伊丹市の中心市街地で打合せや会議をすることにより、大阪や京都、神戸に行かなくても、伊丹で仕事をすませ、すぐに伊丹空港（大阪国際空港）を利用して移動することが可能になります。
- ・空港から乗り換えなしの「伊丹空港ライナー」で中心市街地を訪れることができ、少しの時間でも、回遊性が高い歴史的まちなみが活かされた酒蔵通りを散策することができます。
- ・市民にとっても「伊丹空港ライナー」によって、より空港へアクセスしやすい環境が整います。

(2) 社会的側面別に見る期待される効果

< 環境の側面 >

- ・自動車から環境にやさしい交通手段に転換することにより、温室効果ガス排出量削減につながります。

< 経済的な側面 >

- ・歩くことで市民のみなさまが元気になることにより、医療・福祉にかかる費用の軽減につながります。
- ・移動の安全性、快適性が伊丹市の魅力となり、生活や業務の拠点として選ばれることや、中心市街地がにぎわうことによって、流入人口や交流人口が増加し、伊丹市の経済や産業が活性化されます。

< 参画と協働の側面 >

- ・交通をきっかけとして伊丹市のことを考えることにより、交通以外の面でもより参画と協働によるまちづくりが推進されます。